

良田地区

古墳時代・奈良時代の遺構、遺物を発見！！



良田平田遺跡

復元された奈良時代の硯

よしだひらたいせき

奈良時代の硯（円面硯）の破片が3点出土しました。円面硯は古代の役人が使った文房具の一つです。3点のうち2点は奈良時代の溝から、残りの1点は建物を建てるための盛り土（整地土）の中からみつけられました。出土した3点は形や特徴が昨年みつけた円面硯の破片とよく似ています。そこで、破片同士をつなぎ合わせてみると…なんと一つの円面硯が復元できました！すべての破片は元々同じものだったのです。

計4つの破片は 20～40メートル離れた場所で出土しています。壊れて捨てられた後に、盛り土や溝の掘り直しといった作業によって、土ごと動かされたのではないかと推測しています。



良田中道遺跡

木製桶が出土しました！

よしだなかみちいせき



弥生時代後期～古墳時代前期の流路

2区南側で弥生時代後期～古墳時代前期頃（約1800年前）の流路がみつかりました。幅は最大約9mもあります。

また、古墳時代前期の地層から、木製の桶の破片が出土しました。破片から推測すると、直径約40cm、高さ50cmの円筒形の桶（復元模式図）だったと考えられます。

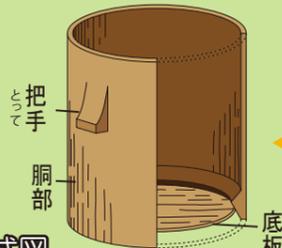


桶の出土状況



面白い形をしてるなあ

桶の復元模式図



鳥取西道路の遺跡を掘る！

第42号 2012年10月24日

10月は衣替えの季節。最近急に肌寒くなり、秋の到来を感じさせられます。今回はそんな季節にちなんで、むかしの衣服についてご紹介します。



- ① 桂見鍋山遺跡(鳥取市桂見地内)
- ② 東桂見遺跡(鳥取市桂見地内)
- ③ 高住牛輪谷遺跡(鳥取市高住地内)
- ④ 高住井手添遺跡(鳥取市高住地内)
- ⑤ 高住平田遺跡(鳥取市高住地内)
- ⑥ 良田平田遺跡(鳥取市良田地内)
- ⑦ 良田中道遺跡(鳥取市良田地内)

むかしむかしのファッション事情

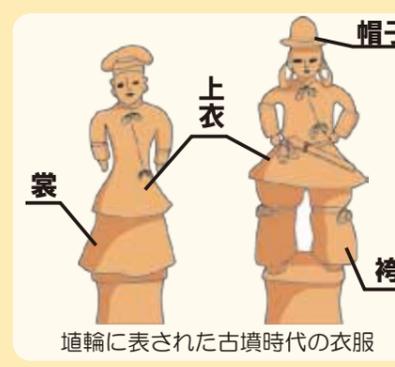
私たちが現在着ている衣服といえば、和服・洋服など種類やデザイン、素材も豊富。一方で、遠いむかしの人々はどのような衣服に身を包んでいたのでしょうか。

縄文時代の人々は、毛皮や植物の繊維を編んで衣服にしていたと考えられています。弥生時代には、これに加えて機織り機で編んだ麻布や絹布を用いた『貫頭衣』や『合わせ着』等を着ていたことが、『魏志倭人伝』など中国の歴史書の記述からわかっています。古墳時代には、位の高い人物を模した埴輪にみられるように、より洗練された衣服も登場します。下図に示した埴輪は、上衣は前で合わせる丸首の着物、下衣は男性がズボン状の『袴』を、女性がスカート状の『裳』を着用しています。

良田平田遺跡で出土した平安時代の銅製鉈尾（ベルト金具）のように、衣服の一部や布、装飾品は数多くみつっていますが、衣服そのものが出土することはなく、人物埴輪や古墳の壁画、古い記述などから推測するしかありません。むかしのファッション事情はまだ謎に包まれているのです。



弥生時代の衣服



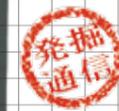
埴輪に表された古墳時代の衣服



良田平田遺跡出土鉈尾 (昨年度調査で出土)

(財) 鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所

〒680-1133
鳥取市源太12番地
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)
TEL: 0857-51-7553
FAX: 0857-51-7550
メールアドレス:
tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com



今年度調査の出土品展示会を開催します！

開催日・時間：11月29日(木) 13:00～17:00
30日(金) 9:00～15:00
開催場所：松保地区公民館

今年度の発掘調査で出土した遺物を一堂に展示します。
調査員による説明もおこないますので、お気軽にお越しください。

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

桂見地区

東桂見遺跡の発掘調査
着々進行中！

東桂見遺跡

ひがし かつらみ いせき



今回は、調査現場に迷い込んだ動物たちを紹介します。東桂見遺跡は出会いの森入り口近くに広がる水田地帯に位置するため、田んぼに生息する動物たちが調査現場に入り込んでやってきます。

まずは左の大きなカエル。通称食用ガエル、正式名称ウシガエルと呼ばれるカエルです。

このカエルは全長約 15cm、食用ガエルの中でもやや大きい方です。今にも喋りだしそうでした。



次はこの卵。古墳時代の水田跡の土の中からみつかったのですが、何の卵かわかるでしょうか？答えはスッポンの卵です。不幸にも割れてしまった卵の中には、スッポンの幼体が入っていました。おそらく、スッポンの母親が地下深く潜って産卵したのでしょう。

ちなみに、古墳時代のスッポンの卵ではありません。



最後は、遺跡の話です。標高約 4.5mの地層の中から縄文時代の土器が多く見つかりました。多くは小さく割れた破片でしたが、土器の表面に残された文様の特征から縄文時代中期から後期（約 5,000～3,000年前）のものであることがわかりました。

この桂見地域では縄文時代後期の丸木舟もみつっています。北側に瀉湖をのぞみ、湖岸にせまる丘陵に囲まれたこの地域で暮らした縄文人の生活を知り手がかりになるかもしれません。

高住地区

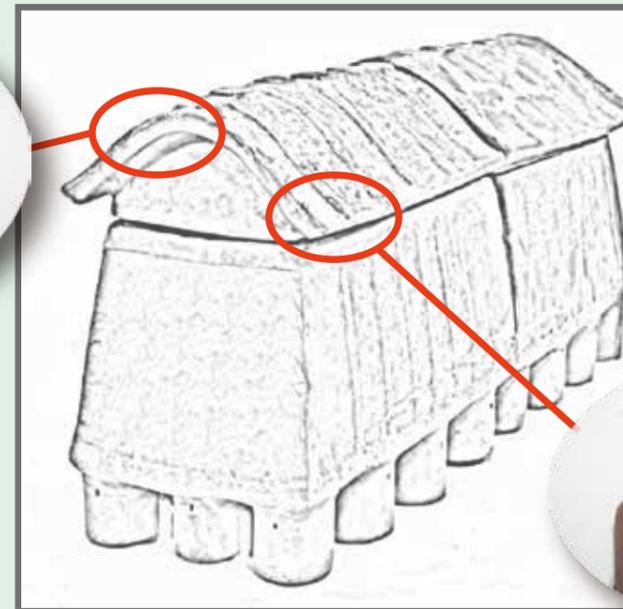
高住牛輪谷遺跡

たかずみ うしわだに いせき

失われた古墳・・・？



高住牛輪谷遺跡で「陶棺」の破片がみつかりました。陶棺とは、粘土を焼いて作った陶製の棺のことです。古墳時代後期頃（6～7世紀）に中国地方や近畿地方で造られた古墳の横穴式石室などにおさめられていました。



陶棺の蓋の形状には、亀の甲羅のような形をした亀甲形と、切妻造や寄棟造などの屋根の形をした家形があり、底部には筒形の脚がたくさん付いています。

出土したのは切妻造の家形陶棺で、蓋の破片とみられます。今後の調査の進展にともなって、もっと多くの破片が出土し、陶棺の形が復元できればと期待されるところです。

また、陶棺との関連は不明ですが、「耳環」という古墳の副葬品によくみられる昔のイヤリングも出土しています。大きさは直径約2.5cm、緑青色にさびており、銅製のようなようです。

遺跡の東側にある山の上には古墳群（倉見古墳群）がありますが、調査地の近くには古墳が見当たりません。しかし、耳環や陶棺の出土は、付近に古墳があった可能性を物語っています。今後、周辺の調査によって新たな古墳が発見されるかもしれません。

